

令和6年度 秦野市食育推進委員会における御意見等への回答書

資料1：秦野市食育推進委員会書面会議(趣旨説明)  
 資料2：取組状況一覧表  
 資料3：目標値の達成状況表  
 参考資料1：食育通信19号・20号

委員名	質問・意見等	回答及びご意見に対する考え方
古木 委員 ・ 府川 委員	<p>資料2【取組状況一覧表】</p> <p>基本目標1―(1)</p> <p>②認定こども園や学校、各事業等における「家庭における食育」の普及啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高血圧発症リスクとして心不全があり、日ごろより食塩摂取量を気に留めていく必要がある。</li> <li>・子どものころからの減塩と野菜摂取350g/日について、また、一口40回嚙むことの推進をお願いしたい。</li> <li>・家庭においては、保護者も含めて、スマホを見ながら食事をしている様子が年々増加していると思われるので、引き続き、様々な角度からの普及啓発をお願いしたい。</li> </ul>	<p>【こども家庭支援課】</p> <p>・いただいた御意見は、今後の取り組みの参考とさせていただきます。</p>
加藤 委員	<p>資料2【取組状況一覧表】</p> <p>基本目標1―(2)</p> <p>⑥学校における食育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「児童、生徒の過体重とやせ対策」は実施していないのか。</li> </ul>	<p>【学校教育課】</p> <p>・学校給食を通じて、正しい食生活を身につけられるように実施しています。また、学校医と相談の上、学校保健会から小学校4年生と中学校2年生(場合によっては全学年)の肥満対象者にチラシを配付しています。</p>
加藤 委員	<p>資料2【取組状況一覧表】</p> <p>基本目標1―(2)</p> <p>⑧良く噛んで味わって食べることの普及啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者向けの宅配業者を増やし、補助金を増やすことは可能か。</li> </ul>	<p>【高齢介護課】</p> <p>・現在の状況では新たな宅配業者を増やすこと、及び補助金等の交付については検討していません。</p>

神戸 委員	<p>資料 2 【取組状況一覧表】</p> <p>基本目標 1 — (3)</p> <p>⑪食の安全に関する知識の普及</p> <p>・ノロウイルスも流行しているので、食事前の手洗いの指導をお願いしたい。</p>	<p>【市民相談人権課】</p> <p>・今後も、より多くの市民の方々に食の安全に関する正しい知識を周知できるよう努めます。</p>
小澤 委員	<p>資料 2 【取組状況一覧表】</p> <p>基本目標 2 — (1)</p> <p>①食育の日の啓発活動の推進</p> <p>・食育の啓発について、ホームページについて分かりやすく掲載されている。</p> <p>アイディア料理コンテストについて、ホームページへの掲載や学校への配布もされており、小中学校の親子で読んでほしい。また、朝ごはんの必要性など大切なことも繰り返し掲載してほしい。</p>	<p>【こども家庭支援課】</p> <p>・いただいた御意見は、今後の取り組みの参考とさせていただきます。</p> <p>今後も、より多くの市民の方々にとって有益な情報提供に努めます。</p>
加藤 委員	<p>資料 2 【取組状況一覧表】</p> <p>基本目標 2 — (1)</p> <p>②給食（共食）を通じたコミュニケーションの促進</p> <p>・みんなの食堂の補助において、食材費を増やしてほしい。どのくらいの食材費が出るのか内訳を知りたい。</p>	<p>【こども政策課】</p> <p>・こども食堂等、こどもの居場所を運営する市民団体に対し 1 団体当たり年間 5 万円を上限に補助金を交付しています。補助対象経費は食材費のほか、消耗品費、印刷製本費、保険料、会場使用料、講師等に対する謝礼としており、その予算配分は運営団体が決めています。</p> <p>・食堂で使用する食材は、フードバンクからの食材提供や地域や企業の方からの寄附などで賄えることも多く、地域とのつながりの中で運営されています。</p>

古木 委員	<p>資料 2 【取組状況一覧表】</p> <p>基本目標 2－（3）</p> <p>⑦給食における和食や郷土料理等の導入の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・減塩食の機会を子どもたちのために、家庭科の調理学習や給食の献立など不定期でよいので実施してほしい。</li> </ul>	<p>【教育研究所】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>小学校</b>の「家庭科」の調理実習では、食事の役割や食事の仕方に基礎的・基本的な知識を身に付け、楽しく食べるために日常の食事の仕方を工夫することができる。また、<b>中学校</b>の「技術・家庭科」の家庭分野の学習では、食事が果たす役割や中学生に必要な栄養の特徴、健康に良い食習慣に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、健康のために食習慣を工夫することができるようにする。と学習指導要領に記載されています。関心を持つことは大切と考えます。</li> </ul> <p>【学校教育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校給食の献立は、学校給食摂取基準に基づき作成しており、ナトリウムを抑えた適塩給食に努めています。いただいた御意見は、今後の取り組みの参考とさせていただきます。</li> </ul>
加藤 委員	<p>資料 2 【取組状況一覧表】</p> <p>基本目標 2－（3）</p> <p>⑧地域における郷土料理、和食等の食文化継承の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地産地消月間の実施における取組みにアイディア料理コンテスト参加店舗の実績がないようだが、その理由はどのようなものか。</li> </ul>	<p>【農業振興課】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和 5 年度の地産地消月間については、実施期間と各レシピの食材調達時期のズレ等により、十分な数の協力店舗を確保できず実施を見送りました。</li> </ul> <p>今後は、通年で参加店舗を募り、幅広く対応することで、地産地消の推進を図ります。</p>

小澤 委員	<p>資料 2 【取組状況一覧表】</p> <p>基本目標 2 ー (3)</p> <p>⑧地域における郷土料理、和食等の食文化継承の促進</p> <p>・アイディア料理コンテストで児童・生徒が考案した秦野産食材を使用したレシピを給食で利用していただけると子ども達が食材に親しむ機会になると思う。</p>	<p>【学校教育課】</p> <p>・学校給食では、衛生管理の徹底、大量調理による調理方法や調味の工夫、児童生徒の食物アレルギーへの対応などを踏まえ、安全・安心でおいしい給食の提供に努めています。令和 5 年度に、生徒及び保護者、市内の生産者や商業者から中学校給食の献立を募り、実施した経過がありますので、いただきました御意見を踏まえ、調査研究に努めます。</p>
古木 委員	<p>資料 2 【取組状況一覧表】</p> <p>基本目標 3 ー (1)</p> <p>①秦野優良農産物等登録認定制度の充実</p> <p>・減塩食を生産している若しくは生産予定の事業者への認定制度を検討してほしい。</p>	<p>【農業振興課】</p> <p>・秦野優良農産物等登録認定制度については、環境にやさしい農法や、農業生産工程における管理など、一定基準を満たした農畜産物及び加工品を認証する制度となっていますが、いただいた御意見は、今後の参考とさせていただきます。</p>
小澤 委員	<p>資料 3 【目標値の達成状況表】</p> <p>基本目標 1 ー (1)「朝食欠食の割合」</p> <p>・朝食の欠食割合について、中学生が悪化してきていることが気になる。</p>	<p>【教育研究所】</p> <p>・朝食の欠食割合が悪化している原因として考えられることは、夜型の生活リズムです。就寝時間が遅くなると朝食の欠食頻度が高くなるようです。また、朝食が用意されていないことや家族との食事環境の変化、運動量の変化等が考えられます。今後の取組の参考とさせていただきます。</p>
森 委員	<p>資料 3 【目標値の達成状況表】</p> <p>基本目標 2 ー (1)「1 日に 1 回以上、家族の誰かと食事をするようにしている人の割合」</p> <p>・孤食の対応は各家庭の状況把握ができなければ改善は難しいが、乳幼児期で家族と食事ができない理由を把握すること、また、強制的に実践させるのではなく、こころの育成に重要な取組みでフォローできる仕組みが重要と感じた。</p>	<p>【こども家庭支援課】</p> <p>・いただいた御意見は、今後の取り組みの参考とさせていただきます。</p>

<p>森 委員</p> <p>・ 浜地 委員</p>	<p>資料3【目標値の達成状況表】</p> <p>基本目標2—(2)「体験型農業の拡充」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験農業について、実践する意味の理解を進めには大変有意義であるため、体験農業の参加者が増えることに期待したい。</li> <li>・目標値には至っていないが、自然豊かな秦野のアピールになるため、ぜひ継続してほしい。</li> </ul>	<p>【農業振興課】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光農業や農産物の収穫体験事業を実施することは、市内農産物の振興や食育の推進にも繋がると考えていますので、引き続き取り組みを実施していきます。</li> </ul>
<p>三瓶 委員</p> <p>・ 神戸 委員</p> <p>・ 古木 委員</p> <p>・ 森 委員</p>	<p>資料3【目標値の達成状況表】</p> <p>基本目標3—(1)「給食食材における秦野産野菜に使用割合」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最近の異常気象の影響を受け、以前のように計画的な生産が困難となってきたが、地場産率の目標である50%達成に向け、JAや生産者と連絡を密にし、少しでも多く導入が増えるよう最新情報による献立づくりをお願いしたい。</li> <li>・小学校給食において、使用割合が低いが、共同一括炊飯ではないからなのか。</li> <li>・地域で市場に出すのが困難(変形)な野菜等もぜひ給食用に提供できるよう交渉してほしい。</li> <li>・給食における秦野産野菜使用割合の目標達成に至っているところは素晴らしいと感じる。</li> </ul>	<p>【学校教育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・給食食材における秦野産野菜の使用割合は、「秦野市総合計画(はだの2030プラン)」や秦野市都市農業振興計画の目標値でもあり、中学校給食においては、秦野市農業協同組合と連携を密に図りながら、取り組んでいます。</li> <li>・小学校給食については、市内納入業者を通じて、地場産物の推奨を図っていますが、近年の酷暑やゲリラ豪雨などにより、収穫量への影響があることから、今後地場産率を回復するため、農業者や商業者と意見交換を行うなど努めています。</li> <li>・規格外野菜の使用について、中学校給食では長期休業中を活用し、1次加工を行い、2学期以降の給食に取り入れています。また、献立や当日の作業手順によっては、規格外野菜を一部受け入れるなど、柔軟に対応しています。</li> </ul>

<p>小澤 委員</p> <p>・ 神戸 委員</p> <p>・ 古川 委員</p> <p>・ 府川 委員</p> <p>・ 加藤 委員</p> <p>・ 浜地 委員</p> <p>・ 森 委員</p>	<p>資料3【目標値の達成状況表】</p> <p>基本目標3—(2)「学校給食の残食率」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校給食では、秦野産野菜の使用割合の増に比例して、残食の割合も増えているが、残食の主なもの秦野産野菜を使用したものなのか。要因を洗い出し、解決につなげてほしい。</li> <li>・中学校給食の残食率について、実績と目標値に差があり、前年度と同様の方策（配膳方法の情報共有、献立の見直し及び生徒への食育など）だけでは同様の結果となる懸念があるため、他の環境整備（十分な食事時間の確保など）も検討が必要ではないか。</li> <li>・小学校の立場として給食においては、味の良さもあり、比較的こども達はたくさん食べている。</li> <li>・給食の残食率が多いのは、欠席者が増えてきたからか。</li> <li>・過去に給食を試食する機会があったが、長年、栄養教諭の方々が知恵や工夫をされたメニューだと感じた。小学校と中学校で情報交換し、給食の内容や更なる質の向上に努めていただきたい。</li> <li>・配膳作業の迅速化で給食喫食時間が確保できる点は大変有効と感じる。</li> </ul>	<p>【学校教育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校給食において、秦野産野菜のため残食率が高くなるとの傾向はなく、野菜を多く使った副菜による影響と考えている。そのため、味付けや切り方、茹で方などの調理を工夫するとともに、給食だよりなどによる献立の伝え方を改善するなど、努めています。</li> <li>・中学校給食の残食率について、令和6年度は栄養士の訪問回数を増やし、直接生徒の声を聞くことで味付けの工夫や食育活動に努めてきました。引き続き、献立の工夫や給食指導の援助、ネットワークを活用した食育に取り組んでいきます。</li> <li>・中学校給食の味付け等については、生徒たちにとってアンケート結果をもとに調整したり、月に1回学校現場に出向いたりして、直接生徒たちの声を拾い、献立作成に反映させています。また、調理員との反省会を行い、アドバイスももらいながら献立の改善に努めています。その他、定期的に市民向けの試食会を給食センターで実施しており、その際にも給食についての意見を聞いています。今後も、思春期の生徒たちの好みや特性に寄り添った味付け、料理の組み合わせ、盛り付け、食べやすさ等、献立に工夫をしていきます。また、給食だより等を通じて、部活動や勉学に適した食事の整え方や、必要な食事摂取の基準量についても発信していきます。</li> <li>・いただいた御意見は、今後の取り組みの参考とさせていただきます。</li> </ul>
---	---	--

古川 委員	<p>資料３【目標値の達成状況表】</p> <p>基本目標１―（２）「体重が適正な人の割合（４０－７４歳）」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象となる４０～７４歳の男性の数は多いと思うが、資料２【取組状況一覧表】を見ると、この世代に向けた取組みは多くないように思った。また、適正体重に無関心の方々は、自ら進んで健康講座等へは参加しないと思うので、その層への取組みについては、介入方法、場所及び時間帯などの検討が必要なのではと思った。</li> </ul>	<p>【国保年金課】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特定健診を仕事等で忙しく、平日に医療機関で受診できない４０代から６０代を対象に保健福祉センターで集団健診を日曜日に令和４年度より実施しています。</li> </ul> <p>令和６年度は年３回実施し、生活習慣病の発症リスクが高い者を対象とする、特定保健指導もその場で健診結果を元に行い、健康保持・増進につなげました。健康に無関心の方々への対策は引き続き検討していきたいと思います。</p>
和田 委員 ・ 浜地 委員	<p>資料３【目標値の達成状況表】</p> <p>基本目標３「その他・ボンチーヌの目標」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こども園における「ボンチーヌと一緒に楽しい食育」では、ボンチーヌが親しみやすく意識づけのよい機会となっている。</li> <li>・たくさん活動されているようだが、インパクトが薄いので、はだの三兄弟とコラボするなど検討してもよいのではないか。</li> </ul>	<p>【こども家庭支援課】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いただいた御意見は、今後の取り組みの参考とさせていただきます。</li> </ul> <p>今後も、こども園・幼稚園、保育園、小中学校と連携し、身近な食育キャラクターボンチーヌの食育で、取り組みを進めます。</p>
古川 委員 ・ 和田 委員	<p>参考資料２【食育通信】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食育通信は保護者に向けて作成していると思うが、こどもに向けた表現があることから、表現に大人向けに直していいかと思う。また、保護者世代の健康課題（適正体重の維持など）に関する話題も時にはよいのではないか。</li> <li>・保護者も関心を持って読んでおり、分かりやすいと好評である。</li> </ul>	<p>【こども家庭支援課】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も、より多くの市民の方々に読んでいただけるよう、表現や発刊方法等について検討を進めます。</li> </ul>

森 委員	<p>【その他意見】</p> <p>全世代の食育の推進について、基本的な項目については問題ないと思われるが、最終目標達成を目指すには、関係各部署の関係者が目標設定した意味を十分に理解する必要性があると感じている。</p> <p>特に朝食は食べればよいという物ではなく、食べることでどのような健康リスクの改善が可能になるか、また、現在、体調不良を感じておられる人を抽出した上で、個々に合わせた食の改善を提案することができれば、朝食摂取の必要性を実感してもらえと考える（特に睡眠不良や肥満、メンタルリスクの保持者などは、朝食摂取できる状態を維持することで、各種の体調不良が改善できる可能性もあるため）。貴市としては、その方法を検討されて各部署の関係者にそれらを周知することがこれらの目標達成に貢献できると考えた。</p> <p>また、低栄養は高齢者だけでなく、近年は若年者の課題がある。低栄養は活動不良やメンタルの不調にもつながるため、各個人の適切なボディーイメージや必要な栄養素やエネルギー量を把握してもらう取組みが必須である。</p> <p>中学校での給食の残食の問題も、食べない女子が増えていることも影響していると考えており、貴市としては、各学校関係者に各家庭や個人への理解が進むような情報や資料の提供が必要かと感じている。</p> <p>近年、生活習慣病の予防を実践されているクリニックや病院も増加していること、妊娠前からの栄養摂取や乳幼児からの予防対策だけでなく、メンタルケアにも栄養や運動による予防効果の症例も増えてきている状況である。</p> <p>貴市の専門医などからの情報共有を頂きながら、個々の健康リスクや課題に</p>	<p>【こども家庭支援課】</p> <p>・いただいた御意見は、今後の取り組みの参考とさせていただきます。</p>
---------	--	---



<p>マッチした食育の推進などの取組みができればと考えている。</p> <p>先日の小児栄養研究会では、産婦人科分野ではプレコンセプションケアに基づいた痩せの対応の必要性（生理が止まってしまったことに対するケア）、スポーツ栄養分野では、相対的エネルギー不足による健康被害、母体栄養では母親の腸内細菌叢の状態が、子への健康に影響するという報告などがあり、内科医、小児科医、歯科医、整形外科医、産婦人科医の全ての医学分野の医師への情報提供も重要となる。その他、ダイバシティへの考え方を踏まえて、発達障害者（児）へはここに合わせた食の整え方が必須であり、精神疾患では、社会復帰に向けた段階での栄養ケアが重要となる。</p> <p>多くの情報があふれている世の中であるが、それぞれの対象者が必要となる情報を獲得でき、現状の健康課題が解決でき、食育の推進が進むような逆の食育推進の方法も視野に入れながら、秦野市民の健康増進に貢献できる取組みになればと期待したい。</p>	
--	--